



より詳しいバージョンです!!

蹄管理特別プログラム 2026/3/20 -23 講師：ドルテ・ドーファ ウイスコンシン大学教授



その他、各会場には数名の発表者にご準備いただいております。

対象：農家、削蹄師、獣医師、企業など蹄に興味ある全ての皆様

ドーファ先生のご講演には逐次通訳が、資料とスライドには日本語訳が付きます。

3/20 16時～19時 十勝プラザ2階 視聴覚室

(北海道帯広市西4条南13丁目1 0155-22-7890)

- ・帯広畜産大学研究紹介（1～2題）（15分ずつ）
- ・ドーファ先生：アメリカの蹄管理事情（治療・予防）、その他

3/21 16時～19時 別海プラザホール

(北海道野付郡別海町別海旭町47番地の1 0153-75-2146)

- ・中村聡志 先生（ノースベッツ）
初産牛の蹄病が生産性に及ぼす影響（15分）
- ・安富一郎 先生（ゆうべつ牛群管理サービス）
コルク栓抜き（コークスクリュー）蹄から学ぶこと（15分）
- ・ドーファ先生：
①ロボット牛群における蹄管理、②病変の目合わせ、その他

3/23 13時～16時 酪農学園大学（C1-101教室）

(北海道江別市文京台緑町582 011-386-1111)

- ・福田昭 先生（酪農学園大学）
DD病変から採取したトレポネーマの培養について（15分）
- ・村上高志 先生（酪農学園大学）
酪農場の蹄病発生状況から考える対策（15分）
- ・安藤孝一郎 先生（E Ranchars）
削蹄師のための音声入力システムの可能性（15分）
- ・ドーファ先生：①跛行に関する研究教育の現状と動向、その他

各会場で話題も色々。
ドルテ先生も通訳さんも優しいから、日頃の疑問をご質問ください～
当日受付も可能です！
お仲間や、業者さんにもお声がけください！

Dörte Döpfer先生は、DD（趾皮膚炎）を始め、蹄管理分野全体においても世界をリードする第一人者です。柔和でオープンなお人柄でもあり、国際蹄病学会では先生の周りは常に人だかりができます。また大の親日家で、今回の来道は先生の温かいご厚意により、ご家族旅行に合わせる形で実現したものです。このまたとない機会に、先生の豊富な知見を幅広く学び、日本における護蹄管理のさらなる向上につなげていければと考えております。また他の演者も充実していますので、共に学び、考える場となるはずです。

(護蹄研究会 会長 阿部紀次)

【事前参加申込】 QRコードまたはURLから申し込みフォームにアクセスし、必要事項を入力して送信してください。

<https://forms.gle/wynWqezn2A91hFS5A>

【参加費用】 1会場でも、複数会場でも5,000円です。当日会場にて現金でお支払いください。



【ご協力企業（含削蹄社）様 m(_)_m】

- ・3万円で、講演資料への広告掲載。
- ・5万円で、上記プラス、会場でのブース設置。
- ・10万円で、上記プラス、宣伝資料など同封。
(ご応募しめきり2月15日)

【お問い合わせ】

護蹄研究会事務局（村上）：t-murakami@rakuno.ac.jp

ドルテ先生の教えをほんの一つご紹介しましょう。

★DD は切り取ってはならない・・・

現場では DD を切除する方法があると聞くことがあります。しかしながら『外科的切除』は全く利益のない方法です。

① 過去の実験、②過去の経験、③理論的に考えても、④倫理的にも です。

①：以下はドルテ先生が行った貴重な試験です。DD の感染試験を行った後に、治療試験を行いましたごく少数に対して「外科的切除」を行ってみました。以下は結果です。（牛の痛みを考慮して、7日以降の検討は中止した）



②および③：過去の経験として、感染試験をした時に DD の原因菌を正常な皮膚に塗りつけても発症せず、不可抗力的に傷ついた皮膚（菌を入れたブーツを履かせたのだが、そのブーツを締めたために傷んだ副蹄の付根）に発症したのです。ですから、いかに厳密な外科手術を行って今ある病変を除去しても、術後、正常皮膚の再生中に、バリアを失った皮膚からの発症は必至と考えるのが普通です。

④：もしも無麻酔で行っているのであれば大変なこと・・・治療は過激（侵襲的）であればあるほど治りが良いという直感を持っている人が一定数居るようだが、それは真実ではありません。炎症反応が維持され、増大すれば、病変はすぐに発生します。一方で、保存療法でも治癒させることは可能です。